

研究テーマ：英作文の力を向上させるための研究

所属 中土佐町立久礼中学校

氏名 黒瀬 初子

RG JH4

1 研究の背景

本校では学習環境作りに力を入れており、英語の授業は全学年で習熟度別少人数学習を実施している。どの学年のどのコースの生徒も意欲的に取り組み、課題に対してやってみようという意識はあるものの、自分なりの表現をしようとするとうまくいかない生徒が多い。そのほとんどの生徒は、文を作る段階で英文の語順を無視した日本文的な構成をする傾向が見られる。そこで、思うように英文を作ることができない原因はどこにあるのか、そして、生徒が自信をもって英作文をするにはどうしたらよいか、ということの研究テーマにしたいと考えた。

2 リサーチクエスチョン

正しい語順を意識させ、それを使って自己表現（書くこと）ができるようにするにはどうすればよいか。

3 予備調査**予備調査1 アンケート**

Q あなたが英語を学習する上で、いちばん難しいと感じる項目はどれですか		
A	2 年生 (17 名)	3 年生 (4 名)
語句を覚えること	0	0
発音すること	0	0
英語で文を作ること	14	3
英語の文章を読むこと	1	1
英語を話すこと	2	0

予備調査2 授業観察の結果・・・資料

予備調査3 授業評価の結果・・・資料

予備調査4 英語力を示すデータ《2 学期中間テストより》

I (with / lunch / him / shared / my).

正答者 6/19

Let's (tell / go / her / and).

8/19

My grandmother (Kure / town / lives / a / in / near).

0/19

4 仮説の設定

仮説 1 テンボがあり、ゲーム性のある授業の中で学習すれば、生徒は自信をもって英作文に取り組めるのではないだろうか。

仮説 2 定期的に、簡単な英作文を課題として取り組ませれば、文を作ることに慣れ自己表現力につなげることができるのではないだろうか。

仮説 3 授業の中で、ほめる場面や達成感のある課題を多く作れば、生徒は前向きに取り組めるのではないだろうか。

5 計画の実践

授業記録をとり、生徒の反応を見ながら授業構成を考える。

英作文をする際には、単語や語句を無視し語順にのみ焦点をあてる。

ゲーム感覚やペアワークでの協力性を伴った活動を取り入れる。

6 実践の結果

授業記録をとることで、流れに工夫ができた。その結果、徐々に活気のある授業になりつつある。

英作文をするときに、単語や語句については質問や友達同士で聞いてもよいことにし

た。すると、生徒は語順にのみ集中でき、正しい英作文ができるようになってきた。

また、個人よりもペアやグループでの活動に効果があった。

一部の生徒たちはかなり積極的にやれるが、英語を苦手とする生徒たちにとってはま

だまだ課題が多い。

7 結果の検証 《2 学期期末テストより》

(things / I / many / remember / so).

正答者 5/19

(you / drink / if / much / too).

9/19

8 成果と今後の課題

成果としては、英作文に対する生徒の姿勢が少し前向きになった。また、生徒の力や伸長を客観的に評価できるようになった。そして、自分自身が授業をすることが楽しみになった。ひとつの課題が克服できれば、次の課題へと進む手順が整えられるようになった。

まずは生徒のやる気を起こさせる環境作りが大切である。

課題としては、習熟度別少人数学習ではあるが生徒の発達段階に個人差があり、授業や課題の設定に工夫が必要であると感じている。個人的なサポートや指導をどう行っていくかが今後の課題である。